

表1. アジア諸語の社会文化的指標アンケート（言語別、中間まとめ）

ジャンル	言語行動・話題化	朝鮮語	ベトナム語	マレーシア語	カンボジア語	ビルマ語	タイ語	ベンガル語	ペルシア語	ヨルング語語 (オーストラリア)	日本語	能力記述項目の 設定は妥当か	CEFRレベル 難易度: A1- C2	Descriptors (仮)
人間関係を確認し、強く反映する話題や表現を使用する	相手の年齢を聞いて確認する	A1 妥当: 普通に行う。若者同士は行うが、学生の場合、学年を聞く。年齢に変わる情報を要求。一般社会では目下の人が目上に対して、男性が女性には行わない。	妥当: 普通に行う。干支もある。年男、年女は演技が良いのか悪いのか、文化によって違う。	A1 妥当: 普通に行う。中高年の女性に対しては行わない。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1-A2 妥当: 呼びかけ語の選択に必要。普通。親族名称を使う。(おじさん、娘さん、お前さん、お兄さん、といった)。親は、人によるが、初対面の相手に聞かれるのが嫌う女性もいる。	妥当: A1 相手が年上か年下かで呼称・自称を選択する必要があるため。	A1-A2 妥当: ただしあまり半端な数を好まないため、厳密ではなく、例えば、52歳なら50歳、57歳なら55歳、もしくは60歳などと言うことが多い。	A1-A2 妥当: 年齢差によって敬語等の使い方が大きく変わるわけではない。ゆえに、確認ではなく、単に「開帳」で尋ねることある。特にタブーにはならない。また、大きな年齢差がない限り敬語の使い方は変わらない。	妥当ではない。開かない。そもそも年齢を教える習慣もない。年齢という概念がない。	妥当ではない。最近では年齢よりも社会的地位における上下関係や相手との関係(販売員・顧客など)のほうが特に関連使用に影響を与えるものではないが、年齢の数字は避けるが、学年や干支で聞くに多い。	妥当: 必要度高し	A1, A2	「相手の年齢を聞いて確認し、その上で適切に文体を変えることができる」
	学歴・出身校などを尋ねる	A1 妥当: 普通に行う。	妥当: 普通に行う。	行わない。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1-A2 妥当: 普通に行う。	妥当: ただし、相手が自分より年上だとと思われる場合はあまり尋ねない。	A1 妥当。	それほど必要ではない。確認ではなく、単に「興味」で尋ねることはある。	妥当ではない。尋ねない。そもそも西洋的な「学校制度」が存在しない。	必要に応じて妥当。相手との関係において共通項を見つけないと出される話題の一つにはなりうるが、学歴・出身校よりは専門分野のほうがより重要ではないか、一般社会では質問しない、面接は別。	妥当: だが必要度低し	A1, A2	「必要に応じて相手の出身校や学歴などを尋ねることができる」
	出身地(両親かどうか?)を尋ねる	A1 妥当: 普通に行う。両親意識が強いので尋ねること多い。両親を確認すると方言で返り上がる。	妥当: 普通に行う。	A1 妥当: 普通に行う。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1-A2 妥当: 普通に行う。	A1 妥当: 両親であることが確認されると当人同士では方言使用が始まる。	A1 妥当。	A1-A2 妥当: それほど必要ではない。確認ではなく、単に「興味」で尋ねることある。特にタブーにはならない。また、それによって文体差は現れない。	A1 妥当: 出身地というより、部族(クラン)名を聞くことがあ。部族内での関係性を決める重要な情報の一つで、最初から学ぶ内容。禁忌ではない。	妥当。	出身国を聞くことは普通	A1	「相手の出身国、出身地を尋ねることができる」
	親住所(どこに住んでいるか)を聞く	A1 妥当: 普通に行う。	妥当: 普通に行う。	A1 妥当: 普通に行う。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1-A2 妥当: 普通に行う。	A1 妥当。	A1 妥当。			必要に応じて妥当。相手との関係において共通項を見つけないと出される話題の一つにはなりうる反面、個人情報として意識している相手の場合はネガティブ・ポライトネスの領域に踏み込んだと誤解される可能性あり。	妥当: 必要度は高い?	A1, A2	「相手の住んでいる場所を確認できる」
	相手の収入や社会的地位	尋ねない。ただし、親族や家族の中や、身の上の人が目下の人には聞くことあり。	妥当: 普通に行う。相手と自分の距離を正しく規定する事ができる。政治的立ち位置にも。	A2 妥当: 普通に行う。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	B1 妥当: 尋ねることはある。ただし、収入は聞くが地位はあまり聞かない。(相手の地位が知りた場合は、本人に直接聞くというより、周りの人に尋ねたがする。)フォーマルな場面では行わない。社会的地位で文体を変える。	収入については尋ねない。社会的地位については親しい信頼または年上・目上からは尋ねる。	A1-A2? 妥当: 通常問題ないが、場合によってはカーズトなどに抵触することもあり得る。相手の収入や親の地位などに限らず、カーズトがらみで微妙なケースもある。	B1 まあ妥当: 特にタブーにはならない。また、それによって文体差は現れない。地位差が大きい場合は、敬語表現が変わる。	妥当ではない。労働の対価に金銭をもらうという概念がない。身分の上下も限られた社会にはない。年を取れば男女ともに長老として尊重される。	相手の収入を聞くのは妥当ではない。社会的地位について聞くのは、相手との関係に応じて妥当。	言語ごとに妥当性が異なる	A2, B1	「相手の収入や社会的地位を確かめる」
	相手の親の職業、親の収入など	A1 妥当: 普通に行う。ただし、初対面や目下の人が目上に対しては尋ねない。	妥当: 普通に行う。	行わない。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	A1 妥当: 職業を聞く場合はあるが、収入は聞かない。	尋ねない。	A1-A2? 妥当:	B1 まあ妥当: 特にタブーにはならない。また、それによって文体差は現れない。	妥当ではない。職業という概念がない。	妥当ではない。	言語ごとに妥当性が異なる	A1	要検討
	休みや週末の行動などを話題にする	A1 妥当: 普通に行う。	妥当: 普通に行う。	A1 妥当: 普通に行う。	妥当: 目下へ、もしくは職業上必要な場面(採用面接など)で行う。	普通に行わない。クラスメートや友人同士なら行うA1-A2。	妥当。	A1 妥当。	A2 妥当: 普通に行う。	妥当ではない。伝統的な生活習慣をヨルングの人々に「遅れ」という概念がない。	A1 妥当。普通に行うあまり個人的なことは尋ねない? 親しい友人は聞く事がマナーか?	妥当: 一般的か?	A1-A2	要検討
社会的立場に応じて言語表現を調整。待遇表現・謙遜表現を持つ	以前招待を受けたことについてお礼を言うか					行わない。習慣がない。	言わない。				A2 妥当: 普通に行う。お礼を言わないと不自然となる。礼を欠く。	言語ごとに妥当性が異なる	A2	要検討
	自分のことや持ち物、または食事などの招待時に謙遜表現を使う	A1 妥当: 普通に行う。出した食事を謙小辞意味に言うなど。ただし、親しい人間関係(母と娘、兄弟、友人、恋人同士など)のプライベートな場面では行わない。	妥当: 行う場合と、行わない場合がある。	行わない。	個人差がある。	B1-B2 妥当。	自分自身については謙遜するというのが一般的。招待については謙遜表現はないと思います。	行わない(謙遜という発想はない)	A2-B1 妥当: 特に男性が高頻度を使う。	妥当ではない。謙遜という文化はない。	B1 妥当: 普通に行う。謙遜表現は必須項目。	言語ごとに妥当性が異なる	B1	「相手への配慮で自分のことや招待した食事などについて謙遜した表現を使える」
	社会的立場の違いから必要な待遇表現を使う	A1 妥当: 普通に行う。ただし、親しい人間関係(母と娘、兄弟、友人、恋人同士など)のプライベートな場面では行わない。	妥当: 普通に行う。難易度高し。	A2 妥当: 普通に行う。待遇が色々ある。	妥当: 普通に行う。相手が僧侶や王族の場合や僧侶や王族を話題にする場合は、語彙が変わる。	C1-C2 妥当: 特に相手が僧侶階級の場合は特別のレジスターに変わるので難易度高い。重要: 一般的には、名字がなく、普通にフルネームで呼んでも問題ない。時に、部分の名前のみ使うことが多い。ニックネームも部分名を使うのが多い。	妥当: カンボジア語に同じ。(カンボジア語からコピペーでよろしいか?)	A1 妥当: ただし敬語のみ。二人称が三通りあり、自分より目上かどうかでどの二人称を用いるかが異なる。それに伴い動詞の変化も異なる。	B1 妥当: 使う。尊敬表現と謙遜表現。また多くの社交辞令や定型表現がある。	C1 妥当: 親族内で特に親しく冗談を言っても構わない叔父と。そうではない年上の親族がある。また、母親の男兄弟の妻(おお)に対しては禁忌の関係性があり、直接話しかけてはいけないう。特別な言葉を使って意思の疎通を図る。	B2 妥当: 普通に行うが難易度高し。社会的関係が明確なときは使用。	言語ごとに妥当性が異なる	A1-C1	「社会的立場に応じて尊敬、謙遜などの定型表現を使用できる」